

2015 年 9 月 10 日

超短期留学報告書

派遣者氏名： 篠山 大輝	
所属・研究室・学年：環境・社会理工学院 建築学系 都市・環境学コース 山中研 修士1年	
派遣先大学： National Taiwan University of Science and Technology	
派遣期間：平成 28 年 8 月 16 日 ~ 平成 28 年 8 月 26 日	

- ・ この表紙を含まず、ページ数は2~4ページ、ファイルサイズは3MB以内としてください。
- ・ 研究室や宿舍内の様子の写真、図表、イラスト、滞在中のその他の写真などは挿入可です。ただし、それらを掲載する際には簡単な説明を加えて下さい。
- ・ 提出された報告書の2ページ目以降を工系のホームページに掲載いたします。また、別途、クロニクルへの執筆をお願いすることがあります。

報告書必須記載事項

- ・ 派遣大学の概要（所在地、創立、大学の規模など）
- ・ 所属研究室での研究概要とその経過や成果、課題など
- ・ 所属研究室内外の活動・体験（日常生活・余暇に行った事など）
- ・ 留学先での住居（寮、ホームステイ等）、申し込み方法、ルームメイトなど
- ・ 今回の留学から得られたもの、後輩へのメッセージ、感想、意見、要望

東京工業大学 工系3学院

超短期留学報告書

派遣年 : 平成28年
氏名 : 篠山 大輝
所属 : 都市・環境学コース
派遣先 : 台湾科技大学

(次ページ以降に記入してください。)

概要

平成 28年8月16日 から 8月26日までの 11日間、台北の国立台湾科技大学へ、工系国際連携室を通じ短期留学をしてきました。この留学では、国際的な規模の環境問題について学び考えることや、他国の文化に触れて交流すること、英語及び中国語を用いる環境に身を置く経験をするなどなどを目的として参加しました。

授業を通じて、現地の学生と交流しながら、テーマのひとつである **Green Energy** の技術に関すること及び、技術に付帯する知的財産権の問題について理解を広めることが出来ました。

また、学外での活動を通じては、現地学生から様々な台湾の文化を教わることができ、さらに日月潭のダムや金瓜石の金鉱、北投温泉など、日本が過去の統治を通じて残した様々な歴史を見て学ぶことが出来ました。

国立台湾科技大学 (1974年創立)

National Taiwan University of Science and Technology, NTUST

台湾の理系国立大学、科学技術に特化した大学であり、技術の知的財産権の研究など文系分野の専門もある。



短期留学参加メンバーの台湾科技大学での集合写真
最前列 右より2番目が自分

目的

私は中学生から大学学部卒業までに、ニュージーランドやアメリカなどへ、短期留学・巡検を通じて滞在し、日本にはない様々な経験を積んできました。これらの経験を通じて日本と海外の間には、文化・価値観に今なお想像もつかない違いが存在することに気づきました。海外の国ごとに異なる文化・価値観はとても興味深いものばかりであり、そこから学ぶべきことが数多くあると考えるようになりました。加えて、大学入学後に学習を始めた中国語は授業の成績が良く、学部後半の選択の中国語授業にも参加し、中華圏の文化に興味を持っていました。

また、自分は社会に直接かかわるような理系の分野に興味があり、将来も理系として世の中に貢献したいと考えていました。この短期留学のテーマの一つであるGreen Energy はまさに今後の世界が必要とする理系の分野であると考えました。

現地での学習

台湾科技大学での11日間はとても刺激的な経験となりました。自分の知らなかったエネルギーの新しい分野について触れることが出来ました。効率的な電池について化学実験を行ったり、色彩の仕組みに関する研究を学んだり、産業革命に関する技術史から今後の問題を考えさせられたりと内容は多種多様でした。教室の外では、スマートフォンなどの最先端の精密機械を扱う企業の工場や、日本が統治していた時代に建設して残した日月潭のダム、知的財産権の裁判所などを見学して、専門外の分野に対する関心が大きく深まりました。

現地学生との交流

台湾学生との交流では、日本語を流暢に話すことのできる台湾学生が複数人いることに驚かされました。また台湾学生と英語で意思疎通を行う際には自らの語学能力の限界を感じる一方で、現地の学生もまた自分と同じように英語に限界があり、自分の簡単な中国語を交えて意味を伝えることもありました。台湾の学生はとても親切で、余暇の観光では丁寧に案内してくれて、中国語しか通じないような場所でも難なく見学することが出来ました。一人の学生とは特別仲良くなり、帰国後もやりとりをする友達になることが出来ました。

現地での生活

台湾に居る間は、学生寮の来客用の広い部屋に泊まることが出来、とても快適でした。食事は日本とは異なる料理の数々で、初めは少しクセを感じましたが、慣れると安くておいしい料理ばかりで、最終日には帰国によって食べる機会がなくなることが惜しくなるほどでした。観光では九份・十分の独特な街並み、北投の温泉街、臺灣101の夜景、士林の夜市、どれをとっても今までにない素晴らしい体験の繰り返しでした。



素晴らしき食事の数々



西門の台湾總統府
元 台湾總督府であり、日本時代に建てられたものが
今も行政機関として使われている。

短期留学で得たもの

科学技術があらゆる分野を超えて発達する時代になり、同時にいままでにないような様々な問題を抱えうることを学びました。理系の人間の一人として、今後こうした問題の解決に役立つことはないか考えるいい機会となりました。

また、日本の文化に強く影響を受けている一方で、中国大陸のものとも異なる独自の部分を持つ台湾文化の豊かさを感じ、多様性のすばらしさを実感しました。日本にいたるだけでは絶対に得られない経験をし、文化を大切にすることの価値を確信することが出来ました。

何より、他では味わえないとても楽しく有意義な体験をすることが出来ました。



象山からの夜景
夜景が見渡せる山に登る際も現地学生は夜遅くまで付き合ってくれた。